
じてんしゃで

新品の靴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

じてんしゃで

【Zコード】

Z9912L

【作者名】

新品の靴

【あらすじ】

朝

私は、眠い。

今日は、

この出来事がどれほどの人々に、どれほどの影響を与えたのかは計り知れない。

朝

私は、眠い。

今日は、1限から授業がある。

緩やかな毎日。

何の閉塞感もなく、ただ楽しいという毎日。

大学に入つて2ヶ月。

大学は楽しい。

高校の時と違い、なんの閉塞感もなく。

毎日が退屈だということもなく。

この日常を壊したいと思うこともなく。

緩やかな毎日。

あのころのえねるぎーは・・・教室を、社会を、世界を壊してやりたいと思つエネルギーは、大学という広さの中で拡散してしまった。

それは、果たして。

果たしていいことなのだろうか。

それで良かつたんだろうか？

それで、生きてこると言えるのだろうか。

みずからをとりまくかんきょうのあたたかさにゆるりとくびをしめ
られなにもかんがえられなくなつていくんじやないだらうか

私は、そつ思いながらもちゃんと降り注ぐ陽の中大学へ向かう。
違う。
違うんだ。

今の私には切実さが足りない。
悩むために悩むとしている。

高校の頃。

何もなかつた。

全く?

全く。

ゼロ。

毎日毎日毎日。

日常日常日常。

予測できる未来。

だからこそ、衝動が生まれる。

私はここにいるんだと。

世界中のやつらに知らせてやりたい。

こんな毎日つぶしてやる。

まあなにもできなかつたわけで。だからこその日常なんだけれど。

「・・・あ」

どん

・・・ いたい。

頭がガンガンする。

私はどうなったんだろう？

ぐにゃぐにやになつた自転車を見る。

ああ・・・私、車にはねられたんだ。

「はは・・・」

「ちよ・・・ちよっと君！ 大丈夫か！ 意識はある？ 命前ぢやんと言える？」

「・・・私は、」

ああ・・・そういうことか。

「私は、死にたくない」

びりじてこんなに涙が出てくるんだろ？

「私は、私は、死にたくない・・・」

「今救急車呼ぶから！ …どこが痛いかわかる？」

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい」

「大丈夫？どこか痛いの？ あ・・・もしもし、今事故にあつた人が」

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい」

「ああ・・・私はどうしちゃつたんだろう。

なぜだか涙が止まらないよ。

何かに謝りたい。

ごめんなさい。

私、今までずっと、ずっと普通だったんだ。

それが、どれだけ幸せだったことか。

たぶん私は死ぬ。

そう思つた途端、世界中の今この瞬間死んでゆこうとする人たちとつながつた気がした。

友達や恋人よりももつと深いつながり。

どうしようもなくまつしぐらに死へ向かう仲間たち。

「ああ・・・あつたかい」

私は、孤独じやない。

あとちよつとで死んじゃうなんて。

それはなんて、皮肉。

「はあ・・・はあ・・・おじさん。私、孤独じやないんだよ? 私、もうひとりじやないんだ」

「君・・・君! 寝ちゃだめだよ? もうすぐ救急車がくるから! ! ! もうちょっとの辛抱だからね」

涙が、止まらない。

かなしくてくやしくて

空。

きれい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9912/>

じてんしゃで

2010年10月11日03時04分発行